

いわてで産み育てる

～未来へつなげる出産・子育て環境づくり～

周産期医療

ガイドブック



岩手県



目次

《お産を取り巻く環境》	3
《産婦人科医と小児科医の仕事》	
《産婦人科医のやりがいや魅力》	4～5
《リスクのある新生児に対応する小児科医と看護師》	6
《助産師の魅力》	7～8
《産前や産後のケアに取り組む助産師》	8～9
《出産に向けた準備・出産時のリスク》	
《妊婦健康診査(妊婦健診)の必要性》	10
《地域で安心して出産できる環境を守るために》	11～13
《出産後に気をつけたいこと》	14
《社会全体で妊娠・出産・子育てを支えましょう》	14～15

お産を取り巻く環境

近年、全国的に産婦人科医や小児科医が不足していることや、分娩取扱医療機関の減少など、周産期医療^{*}を取り巻く環境は、様々な面で課題が生じています。

※「周産期」とは、妊娠 22 週から出生後 7 日未満までの期間をいい、合併症妊娠や分娩時の新生児仮死など、母体・胎児や新生児の生命に関わる事態が発生する可能性が高くなる期間です。周産期を含めた前後の期間における医療は、突発的な緊急事態に備えて産科・小児科双方からの一貫した総合的な体制が必要であることから、特に「周産期医療」と表現されています。

お産を取り巻く現状

岩手県内では出生数は減っているものの、2,500g 未満の低出生体重児の割合が増加していることや、また、近年は医師の高齢化により分娩の取扱をやめる診療所もあるなど、お産ができる施設の減少やハイリスク出産の増加により医師の負担が増えています。

岩手県内で暮らす人は当然のこと、里帰り出産を希望する人も含め、すべての人が安心してお産ができる環境と、お産に関わる医療を提供する体制は、守っていかねばならない大切なものです。

安産には、妊娠前からの体づくりと心づくりが大切です

母児ともに元気に出産を迎えるための準備は、妊娠してから急にできるものではありません。安産には妊娠前からの体づくりと心づくりが大切です。そのためには、お産をよく知っておくことも重要ですし、ご両親、パートナー、医療従事者も含めた周囲の人々からの支えも必要となります。

しかしながら、現実の妊娠・お産では、安産のために準備をしていたとしても、母体や胎児の状態が急変することがあります。そのような時は、お産や赤ちゃんの専門家である産婦人科医、小児科医、助産師などが、全力で支援を行います。

一方で、地域においては、妊娠期から出産・子育て期まで、切れ目のない支援を行い、地域で妊産婦を支える取組が求められています。

産婦人科医と 小児科医の仕事



一般に、妊娠・出産、母体と出産直後の赤ちゃんの健康管理までを行うのが「産婦人科医」、新生児からの健康管理が「小児科医」の役割となります。また、特定の病院にあるNICU（新生児特定集中治療室）ではリスクを抱えて生まれた赤ちゃんに対応する「新生児科医（新生児専門医）」も活躍しています。

産婦人科医と小児科医

産婦人科医は、妊娠から出産までの期間、母体と赤ちゃんの健康状態を診断し、投薬や処置が必要と判断した場合には外来あるいは入院で診療を行います。また、分娩時に母体や赤ちゃんの状態が急変した場合には緊急の帝王切開や分娩介助を行い、生まれてきた赤ちゃんに治療が必要な場合は小児科医が対応します。つまり、産婦人科医と小児科医は、総合的に妊婦さんと関わり、大切ないのちの誕生を常にサポートしている存在なのです。



産婦人科医のやりがいや魅力

岩手医科大学附属病院

総合周産期母子医療センター

産婦人科学講座 助教

羽場 巖 先生



産婦人科医の魅力は、なんといっても命が生まれた瞬間に立ち会うことができ、それをサポートすることができることではないでしょうか。それは赤ちゃんが生まれてくる時ももちろんですが、胎児の心臓が動き始めた時に立ち会うこともあります。それはまさに、命を宿った瞬間を感じられる貴重な体験です。人生のなかでも特に感動的な瞬間に立ち会えるこの仕事は、本当に素敵な仕事だと思います。

岩手県立 大船渡病院

地域周産期母子
医療センター

統括副院長兼周産期医療科長
兼医療研修科長

小笠原 敏浩 先生



私は医学生時代に「何でも切れる外科医になろう」という志を持っていました。それが医学部6年生の産婦人科実習で分娩に立ち会ったことを契機に変わってしまいました。胎児は狭い産道を回旋と屈曲を繰り返し、システマティックに出てくることに大きな衝撃を受けたからです。実際、産婦人科医になると感動的な分娩・帝王切開、スキルが必要な腫瘍外科手術もたくさん経験でき、婦人科腹腔鏡手術・ロボット手術も魅力的で多くの若いドクターが高いスキルの腹腔鏡手術をめざし手掛けています。また、女性の一生を見守る診療科なので、中学校・高校で思春期の授業も行い、生徒との触れ合いも楽しい時間です。このようにドラマあり感動あり達成感ある魅力的な産婦人科で一緒に働きましょう！

産科婦人科 吉田医院

産科診療所

院長

吉田 耕太郎 先生



現在ハイリスク妊娠、分娩が増し、さらに産科医不足の中で総合母子周産期センターを始め関連病院との連携の下に診療所で分娩を扱っている者として、妊娠中から切迫流産、切迫早産、合併症の併発などがないように健診を通して指導しつつコミュニケーションを取りながら信頼関係を築き、未来に多くの希望を持って羽ばたく赤ちゃんの誕生に立ち会えて、元気に生まれてくれた時は自分の事の様に嬉しく生き甲斐を感じます。

最近では妊娠中からメンタルの面での支援が必要な妊婦さんが増えており、保健師、精神科医、小児科医など多職種の方々との連携が重要になってきていますが、その連携は負の連鎖に関連する虐待などを予防することに役立つと考えています。将来の国を繁栄させてくれる子供たちの誕生、成長に関われることは一生の宝だと感じています。

リスクのある新生児に 対応する小児科医と看護師

早期に産まれた赤ちゃんや、呼吸のサポートなど何らかの治療を必要とする赤ちゃんのために、産婦人科医と連携して「小さいのち」を守る活動をしている小児科医（新生児科医）や看護師たちがいます。

NICU
とは



妊娠中や分娩時において母体や胎児のリスクが高いと判断された場合や、新生児に高度な医療を提供する必要がある場合などは、産科と新生児科の両方の機能を持つ「周産期母子医療センター」や赤ちゃんのための集中治療室「NICU」で管理します。24時間体制で周産期医療を行うための専門知識や技術を持った医師、看護スタッフが総力を注いで活動しています。

岩手医科大学附属病院
総合周産期母子医療センター

小児科学講座 助教

松本 敦 先生



子どもは、生まれながらの病気があっても懸命に生きようとします。また、病気を抱えながらも日々成長していきます。目まぐるしく変化しながらも精一杯生きようと子どもたちに向き合う新生児・小児医療は、責任も重いですが大きなやりがいがあります。子どもは親だけでなく、地域の多くの人に関わることで健全に育つことができます。次世代を育てるのはすべての大人の責務ではありますが、国の未来であり希望である子どもたちの成育に医療を通して深く関わることができるのも、新生児・小児医療の魅力だと思います。

岩手医科大学附属病院
総合周産期母子医療センター

NICU 主任看護師

大江 徳子 さん

新生児集中ケア認定看護師



「子どもたちとご家族の笑顔は、私たちの頑張る原動力です！」

NICUには、出生体重1,000g未満の超低出生体重児や先天性心疾患や消化器疾患の「ハイリスク新生児」が入院します。私たちは、治療に伴う苦痛や不快感、ストレスを最小限に抑え胎内環境に近づけて患児の成長発達を促進するケア、患児とその家族の思いに寄り添い、相互の信頼関係のもとで多職種による家族中心のケアを実践しています。また、無事に退院の日を迎えられるように安全・安心そして、最良のケアが提供できるようにスタッフの育成にも日々努力しています。

助産師の魅力

お産に欠かすことができない助産師も、その幅広い役割はまだまだ一般の方に知られていないのが現状です。妊婦健康診査から、分娩の介助、産後のおっぱいの指導、さらにはお母さんと赤ちゃんの健康診断などのほか、妊娠前からの保健指導や性教育なども行っていて、出産を経験する女性にとって身近で重要な存在なのです。

助産師 とは



助産師は看護師免許と助産師免許の2つの資格を持ち、助産行為（正常な分娩を自らの判断で扱う行為）が可能です。

※看護師は男女とも資格取得できますが、助産師は女性しか取得できない資格です。

メンタル面でも妊婦さんを支える助産師

妊娠・出産を経験した多くの女性から助産師への感謝の言葉が聞かれます。特に、初めて出産を経験する女性は、さまざまな不安を抱えています。そんな時に助産師が行う体調管理のアドバイスや育児に関するカウンセリングは、とても心強いといえます。

盛岡赤十字病院

地域周産期母子医療センター

産科病棟 看護師長

高村 ゆりえ さん

助産師として「生命の誕生」に携わり、産婦さんのサポートができる喜びを日々かみ締めています。

地域周産期母子医療センターとしての役割を担うため、急な帝王切開でご出産される産婦さんもおられますが、無事赤ちゃんに会えた喜びを分かち合い、「助産師さんのおかげで安心して出産できました」という感謝の言葉をもたらした時は、助産師としてのやりがいを強く感じます。また、妊娠・出産・育児まで継続的に母子と係わり、サポートできるので、間近で赤ちゃんとお母さんの成長を感じることができ、達成感とやりがいは大きいです。



元北上済生会病院

地域周産期母子医療センター

助産師

梅木 安都美 さん

妊娠、出産、育児の時期は自分の体や心、そして育児と環境が劇的に変化する時期。不安を沢山抱えている妊婦さんの相談にのって力になれた時や、長い陣痛を乗り越え出産に至った母親やその家族の喜ぶ姿を見た時が一番のやりがいを感じる時。出産は大変な分、赤ちゃんの誕生というキラキラした瞬間に立ち会わせてもらえるということが、助産師の醍醐味です。また、この仕事を通じて女性の体のスペシャリストになれるということが、自分自身にもプラスになります。



岩手県立釜石病院

周産期母子医療センター
協力病院

看護師兼助産師

伊藤 利佐さん



出産時、陣痛の波に乗り、感じるままに産み出そうとする妊婦さんのパワーと、産まれようとする赤ちゃんのパワーを感じる空間は、他では感じることでできない神秘的で、幸せにあふれた瞬間です。その時間を共有できるのは助産師の特権です。

担当した妊婦さんが出産後、愛情いっぱいに見ている様子を見ると、助産師として関わることができた充実感と、さらにケアや知識を深めたいという意欲がわいてきます。様々な妊婦さんやその家族との関わりの中で、日々自分自身を成長させてくれる“助産師”という仕事が好きです。

医療法人
黒川産婦人科医院
産科診療所



助産師 齋藤 理恵さん

助産師として働き始めて、妊娠中から出産そして産後まで、家族が増えるという特別な時間に一番近くで関わることができる仕事なのだというのを改めて感じています。

力を合わせてお産を乗り越え、元気な産声を上げる赤ちゃんとそれを迎えるご家族の笑顔を見ると、こちらまで幸せな気持ちになりますし、授乳の練習を一生懸命頑張っていたお母さんが、おっぱいを上手に飲ませられるようになった時とても嬉しく感じます。

今後もお母さん方が困った時やつらい時、寄り添い、一緒に頑張れる助産師になるよう努力していきたいです。

産前や産後のケアに 取り組む助産師



助産師の活躍

出産以外にも、思春期の女性や、これから妊娠を考えている方々、子育て中のご家族など、助産師が関わる場面はたくさんあります。すべての女性、ご家族の身近に寄り添う助産師に、悩みごとや心配ごとを相談してみたいはいかがでしょうか。

周産期医療の現場では、産科医師の過重労働などが指摘されています。助産師と産科医師との連携・協力・役割分担を進めることにより、助産師の専門性が発揮され、産科医師の負担軽減にもつながります。

妊娠・出産包括支援事業 (産前・産後サポート事業、産後ケア事業)

厚生労働省の妊娠・出産包括支援事業として、各市町村に設置される子育て世代包括支援センターが中心となって、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を実施しています。このうち、「産前・産後サポート事業」や「産後ケア事業」の担い手として、地域の助産師の活躍が期待されます。(※詳しくはお住まいの市町村の母子保健担当までお問い合わせください。)



産前・産後サポート事業

妊産婦等に対する相談支援や地域の母親同士の交流支援により、安心して妊娠期を過ごし、育児に臨めるようサポートします。

産後ケア事業

退院後の母子に対する授乳指導及び心身のケア等により、母子とその家族が健やかな育児ができるよう支援します。

産後ケアの必要性・魅力とは

特定非営利活動法人 まんまるママいわて



代表理事 助産師

佐藤 美代子さん



私たちが開設した日帰り産後ケア事業は、育児サロンを行う中で「産後に実家でも休めなかった」「病院が遠くて相談に行けなかった」という声を多く耳にしたことから、核家族が増加している県内の母親達が、少しでも安心して育児が行えるように、休養と相談を兼ねた事業としています。

生まれてすぐに喜びと共に、緊張と不安の中にいた母親達が当施設を利用します。誰かが近くにいる、ゆっくり温かいお布団の上で寝て、しっかり食べて、相談していくと朝来た時と帰りの夕方には表情が見違えるように輝きます。「一層子どもがかわいく思えた」と、心のポットが充電され笑顔で帰るママたちをお見送りする瞬間が一番の幸せです。

出産に向けた準備・出産時のリスク

妊娠期間中及び出産時のリスクを知る



出産までのリスクに、どのように対処するかを考えることも必要です。
以下のような場合は医師や助産師、保健師に相談しましょう。

- 若年齢(20歳未満)の妊娠
- 高年齢(40歳以上)の妊娠
- 低身長(150cm未満)
- 肥満(BMI※25以上)
- 飲酒、喫煙の習慣がある
- 心臓病や糖尿病、腎臓病、自己免疫疾患がある
- 子宮筋腫がある・子宮腔部の手術経験がある
- 前回の妊娠・出産時に異常があった
- 胎児に何らかの病気や障害があることがわかっていてる
- 多胎妊娠(双子以上)
- 不妊治療での妊娠
- 出産時や出産後の赤ちゃんに対応が必要な感染症が母体にある
- Rh血液型不適合で赤ちゃんへの影響が考えられる
- 重い妊娠高血圧症候群になった
- 妊娠20週以降の出血・破水や切迫早産
- 羊水の量が少ない・多すぎる
- 胎盤の位置に異常がある
- 胎児が著しく小さい・大きい
- 妊娠36週を過ぎたが逆子あるいは横位

※BMI(体格指数:体重(kg)/身長(m)×身長(m))25以上が「肥満」、18.5以上25未満が「普通」、18.5未満が「やせ」となります。

(厚生労働科学研究・妊娠リスクスコアより)

妊婦健康診査(妊婦健診)の必要性

妊婦健康診査とは

妊婦健康診査は、妊婦さんとお腹の赤ちゃんの健康をやり、妊娠が順調かどうかをチェックするためのものです。妊娠中は体にいろいろな変化が起こりますし、自覚症状がなく順調に見えても、トラブルが隠れていることもあります。

少なくとも次のような間隔で妊婦健康診査を受けて、赤ちゃんの育ち具合や、自身の健康状態(血圧、尿など)をチェックしてもらいましょう。また、健診時以外でも、出血や腹痛など「おかしい」と感じた時はすぐに受診しましょう。

妊娠23週(6ヶ月末)まで
4週間に1回

妊娠24から35週(7~9カ月末)
2週間に1回

妊娠36週(10カ月)以後出産まで
毎週1回

健診で行われる「検査」の意味

妊婦健康診査で行う検査の意味を理解することはとても大切です。

例えば、B型肝炎ウイルスの抗原検査は、妊婦さんがそのウイルスを持っているとわかれば、母子感染を防ぐために、生後すぐの赤ちゃんに免疫グロブリンやワクチンを接種するために必要な検査です。

分からないことや不安なことは、遠慮なく医師や助産師に質問しましょう。

働いている妊婦さんへ

勤務先に申し出れば、勤務時間内に妊婦健康診査を受診するための時間を取ることができます。
(男女雇用機会均等法)



地域で安心して 出産できる環境を 守るために



医師の状況

全国の医師数は毎年増えていますが、産婦人科医の数は横ばいであり、岩手県においても総数は増えているものの産婦人科医はここ20年で2割程度減っています。また、小児科医は全国では増えているものの、岩手県においては減っています。

区 分		医師総数 (増減率)	産婦人科医 (増減率)	小児科医 (増減率)
全 国	H 8	230,297人	10,847人	13,781人
	H28	304,759人 (+32%)	10,854人 (±0%)	16,937人 (+23%)
岩手県	H 8	2,263人	122人	144人
	H28	2,458人 (+9%)	100人 (-18%)	138人 (-4%)

(厚生労働省 医師・歯科医師・薬剤師調査)

また、厚生労働省によると、産婦人科医の週当たりの労働時間は、平均 61.42 時間と全診療科のうち最も多く、さらに週の勤務時間が 60 時間以上の産婦人科医の割合は 53.3%にのぼっているなど、産婦人科医の負担が増えており、他の診療科と比較して、過酷な勤務状況にあり、改善に向けた取組が必要です。



分娩取扱医療機関の状況

岩手県内の分娩取扱医療機関数は、平成 22 年度の 40 施設から平成 30 年度は 30 施設と減少しており、特に分娩取扱診療所は、医師の高齢化等により県内全域で減少しています。

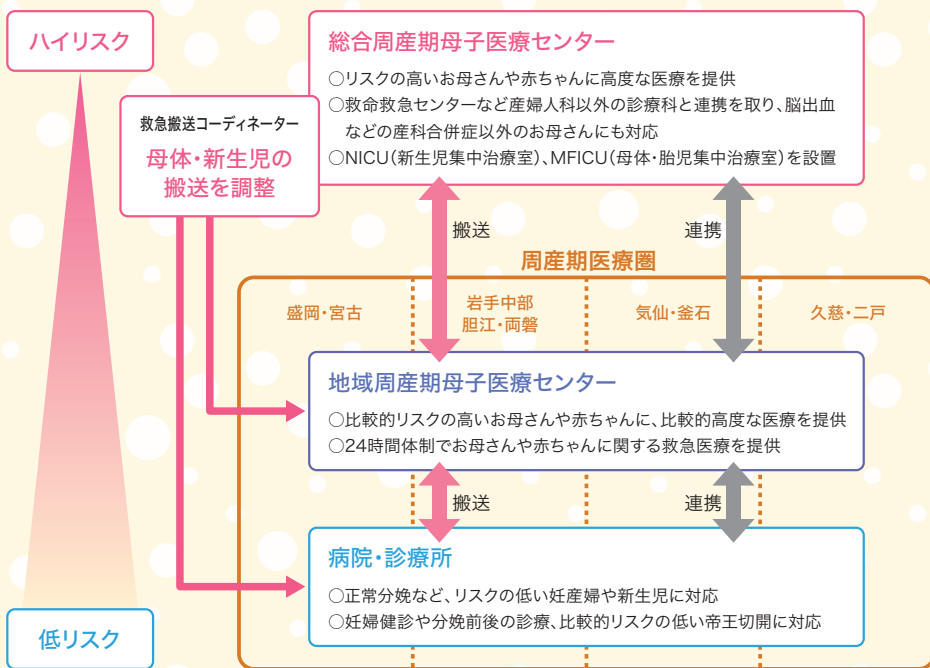


岩手県内の周産期医療の提供体制

妊娠は初めはリスクが低い場合でも、急に赤ちゃんに異常が起きることがあります。お母さんと赤ちゃんのリスクに応じた適切な周産期医療の提供は医療機関相互の連携体制によって守られています。

岩手県では、地域での出産をより安心で安全なものにするため、お母さんと赤ちゃんのリスクに応じた周産期医療を提供できる体制を整備しています。

総合周産期母子医療センター（岩手医科大学附属病院）には、周産期救急搬送コーディネーター（医師等）を配置し、緊急時に地域周産期母子医療センターや診療所、消防機関と連携し、お母さんや赤ちゃんの搬送・受入の調整を行う体制を整備しています。



地域で出産できる環境を守るために

岩手県では、県内の限られた医療資源（医師、助産師、看護師などの医療従事者や、病院、診療所などの医療機関）のもと、医療機関の機能分担や連携の一層の強化を図るため、総合周産期母子医療センターを中核として、地域周産期母子医療センター、協力病院、分娩取扱医療機関、助産所及び市町村との連携を進めています。

妊婦さんには、元気な赤ちゃんを産むために、健康管理に留意して、きちんと妊婦健康診査を受診していただくようお願いいたします。お住まいの市町村では妊婦さんを応援するための産前、産後の様々なサポートが行われていますので、うまく活用してください。

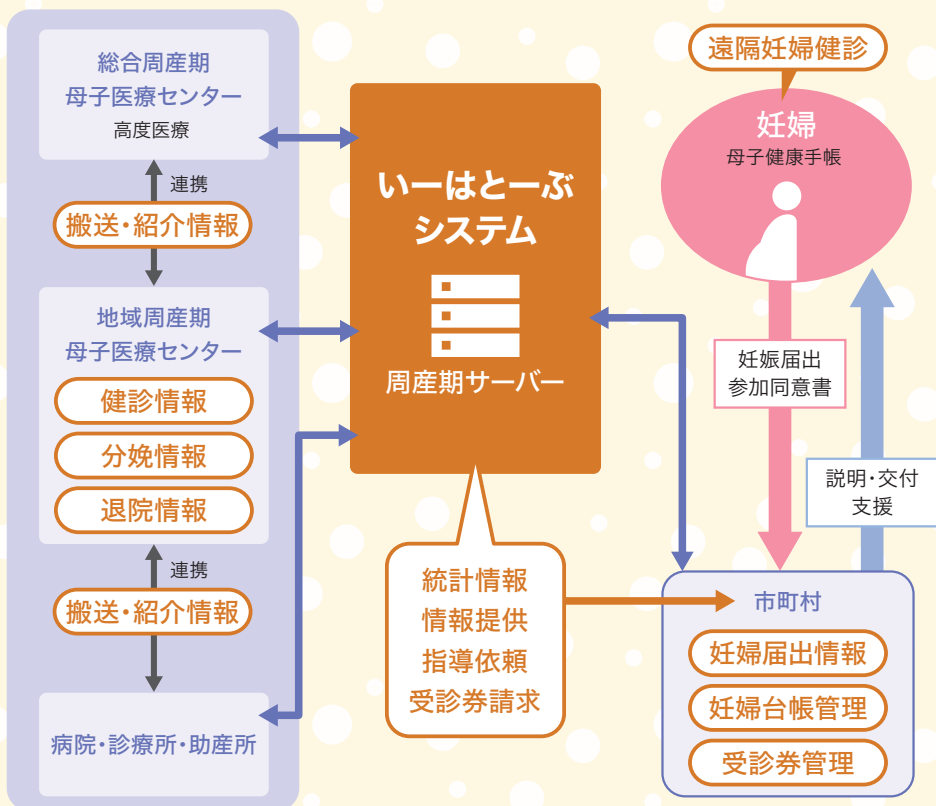


岩手県周産期医療情報ネットワーク 「いーはとーぶ」

「いーはとーぶ」は、県内の周産期医療機関や市町村をネットワークで結び、妊娠届出・妊婦健診・分娩などの情報を登録・共有し、安心安全な妊娠・出産・育児を支援するための周産期医療情報システムです。

市町村と産科医療機関が、この「いーはとーぶ」システムを活用して、健診情報や診療情報を共有することで、母子保健活動や産科医療機関間でのハイリスクの妊婦さんや赤ちゃんの紹介・搬送、産後の育児支援などが円滑に行われています。

「いーはとーぶ」は、妊婦さんの同意のもとで登録を行い、個人のプライバシーは十分に守られます。



出産後に気をつけたいこと

「産後うつ」は誰にでも起こり得る

お産後、数週から数か月（多くは3か月）で出現し、産婦さんの10～15%に見られます。その多くは治療により良くなることも知られています。

右の項目がその症状です。気になる項目があれば地域の保健師や助産師、産婦人科、心療内科などの医療機関に相談してください。

- 赤ちゃんが生まれて嬉しいはずなのに、なんとなく憂うつになる
- 夜眠れない 食欲がない
- イライラして落ち着かない
- 赤ちゃんの泣き声を聞くこと不安になる
- 赤ちゃんをかわいく思えない
- 家族に心配事を相談できない
- やらなければならないと思っても思うようにできない



聴力障がいのある新生児を適切に支援するために

赤ちゃんは生まれてから、いろいろな音を聞いたり、声を出したりして、話し始めるための準備をしています。「きこえ」は話し言葉の習得と深い関係があり、ことばが聞こえるから話し言葉が育ちます。この「ことばの育ち」は脳の発達によって可能となるもので、ある時期を過ぎてしまうと発達するのが難しくなると言われています。

生まれつき、聴覚に何らかの障がいを持つ赤ちゃんは、1,000人に1～2人といわれています。生まれてから早い時期に発見され、生後4～5カ月頃から専門の療育機関で適切な指導を受けることができれば、話し言葉の発達において大きな可能性が広がることにつながります。

現在は、産科医療機関でスクリーニング（聴覚の詳しい検査を必要とする子どもをできるだけ見逃さないための検査）が行われるようになりました。赤ちゃんが寝ている間に行われ痛みは一切ありません。お子様の将来の健やかな言葉の発達のための第一歩として、出生後早期（おおむね3日以内）に、この新生児聴覚スクリーニングを受けましょう。

社会全体で妊娠・出産・子育てを支えましょう

子どもは未来につながる社会のたからもの。妊婦さんや、赤ちゃん、子ども、そして子どもを育てるお母さん、お父さんを社会全体で支えましょう。県民のみなさんは、妊婦さんへの配慮や、地域での子育てにご理解、ご協力をお願いします。

いわての子どもを健やかにはぐくむ条例

子どもは、一人ひとりがかげがえのない存在であり、未来への希望です。岩手県では、妊娠・出産を含め、社会全体で子ども、子育てを支援する取組を進めています。

いわての子どもを健やかにはぐくむ条例



<http://www.pref.iwate.jp/kosodate/34301/034302.html>

妊産婦のための保健指導又は健康診査の受診

勤務先に申し出れば、勤務時間内に妊婦健康診査等を受診するための時間を取ることができます（男女雇用機会均等法）。

産前・産後休業、育児休業制度

出産を控えた又は出産後の女性労働者は、事業主に申請すれば、休業措置を受けることができます（労働基準法）。また、1歳に満たない子を養育する労働者は、育児休業をすることができます（育児・介護休業法）。

【産前休業】出産予定日の6週間前（双子以上の場合は14週間前）から請求すれば取得できます。

【産後休業】出産の翌日から8週間は就業することができません。ただし、産後6週間を経過後に本人が請求し、医師が認めた場合は就業することができます。

【育児休業】子が1歳（一定の場合は、1歳半）に達するまで（父母ともに育児休業を取得する場合は、子が1歳2ヶ月に達するまでの間の1年間＜パパ・ママ育休プラス＞）の育児休業の権利を保障しています（育児・介護休業法）。

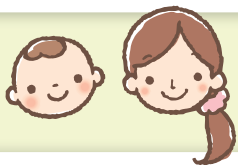
不妊に悩む方への特定治療支援事業費助成金

不妊治療の経済的な負担を軽減するため、医療保険が適用されない特定不妊治療（体外受精、顕微授精）を受けたご夫婦に対し、治療費の一部を助成します。

岩手県 特定不妊治療



<http://www.pref.iwate.jp/kosodate/shien/boshihoken/001915.html>



岩手県子育て応援ポータルサイト 「いわて子育ていらんど」

「いわて子育ていらんど」は、子育て中の家庭が、安心して楽しく豊かな子育て期を過ごすことができるように、また、子どもたちの健やかな育ちにつながるよう、子育ての各段階に応じたきめ細かな情報提供等を行う「子育て情報・応援ポータルサイト」です。

子どもの成長期に合わせた育児情報やQ&A集、子どもの遊び場、子育てサークルなどが検索できるほか、相談窓口、各種制度など岩手県の子育て支援に関する情報を掲載しています。子育て家庭の皆さんはもちろん、企業やNPO等向けの情報も提供していきます。ぜひ活用ください。

いわて子育ていらんど



<http://www5.pref.iwate.jp/~hp0359/>

子育てに優しい職場づくり

仕事と家庭を両立しやすい職場環境づくりのため、企業に労働者の仕事と子育ての両立を図るための計画策定の義務付け（又は努力義務）や、認定制度（くるみん認定）などの取組が行われています（次世代育成支援対策推進法）。

次世代支援対策推進法 くるみん認定



http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/shokuba_kosodate/kurumin/

また、県では、仕事と子育ての両立支援など男女が共に働きやすい職場環境づくりに取り組む中小企業等を認証・表彰する制度（いわて子育てにやさしい企業等認証・表彰制度）を設けています。

いわて子育てにやさしい企業



<http://www.pref.iwate.jp/kosodate/shoushika/44511/001859.html>

子育てサポートセンター

子育て中の親子が、いつでも気軽に安心して過ごせる場を提供するとともに、子育てに関する相談、情報の集積・発信、自主、協働活動等を実施する子育て支援のための中核的施設として子育てサポートセンターを設置しています。

〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号アイーナ6F

●電話番号 / TEL.019-606-1764

●開館時間及び休館日 / 営業時間9:00～17:30

●休館日 / 年末年始12/29～1/3、アイーナ全館点検日（年2日）

※ただし、乳幼児休憩室、子育てサポートルーム及びプレイルームについては、毎月第2、第4火曜日は施設整備のため利用できません。

岩手県 子育てサポートセンター



<http://www5.pref.iwate.jp/~hp0359/childcare/>

子育て支援センター

各地の子育て支援センターは、地域の子育て家庭をサポートする交流・相談の場です。子育て親子の交流の促進や子育て相談、子育て情報の提供などを行う施設で、無料でご利用いただけます。

岩手県 子育て支援センター



<http://www5.pref.iwate.jp/~hp0359/shiencenter/>

いわて子育て応援の店 （i・ファミリー・サービス事業）

子育て家庭を社会全体で応援する、いわて子育て応援「i・ファミリー・サービス事業」を実施しています。お子さん連れの買い物や遊びなどに出掛ける「子育て家庭」に「いわて子育て応援の店」から商品の割引や特典、優先席や授乳スペースの提供などのサービスが受けられます。

いわて子育て応援の店



<http://www5.pref.iwate.jp/~hp0359/uenommise/>

小児救急でんわ相談（#8000）

夜中に起こった子どもの急な病気やケガなどの対処方法に困ったときに相談できる窓口です。相談時間は毎日19時から23時で、ベテラン看護師がアドバイスを行います。

電話番号
短縮番号#8000

（※ダイヤル式電話、公衆電話、IP電話、PHSからはかけられません。）
または019-605-9000



【県内の分娩取扱医療機関】

分類	所在市町村／医療機関
総合周産期母子医療センター [1施設]	●矢巾町／岩手医科大学附属病院
地域周産期母子医療センター [9施設]	●盛岡市／県立中央病院、盛岡赤十字病院 ●宮古市／県立宮古病院 ●北上市／県立中部病院、北上済生会病院 ●一関市／県立磐井病院 ●大船渡市／県立大船渡病院 ●久慈市／県立久慈病院 ●二戸市／県立二戸病院
病院・診療所 [15施設]	●釜石市／県立釜石病院 ●盛岡市／黒川産婦人科医院、今井産婦人科、 みうら産婦人科内科医院、産科婦人科吉田医院、 西島産婦人科医院、村井産婦人科 ●矢巾町／やはば産婦人科 ●宮古市／伊東産婦人科 ●花巻市／工藤医院 ●北上市／斎藤産婦人科医院 ●奥州市／産婦人科おいなお医院、平間産婦人科 ●一関市／齊藤産婦人科医院、コスモレディースクリニック

(令和2年6月現在)



発行：岩手県保健福祉部医療政策室

令和2年6月

電話：019-629-5416(直通)

岩手県 周産期医療

検索

